

提言

暑い夏は恒例のお化けシーズ
ンだが、最近の世相を反映して
か、このところちょっとしたお

化けブームだそうで、各地にお
化け愛好会などができているら
しい。もっとも、近頃の東京に

は柳も石灯籠もめっきり少なく
なって、夏の江戸情緒に乏しく
しい情景もお化けの出る幕もな
くなってしまったようだ。

そのかわりなのか、最近では、
「オカルト」だとか「エクソシ
スト」だとか「大予言」とやら
が流行しはじめ、ユリ・ケラー
なるイカサマ師が人気を博した
り、先日は悪心をむさぼる「ス

ブーン曲げ」がはやされて様々
な話題を呼んだことは先刻ご案
内のとおりである。ネス湖の怪
獣狩りや習男再探検なども、こ
れら一連の奇行につけ加えてよ
いだろう。

このような一連の非科学の流
行は、お化けブームのような
「人生に夢を」といった
域を超えており、終末論

がはやされたり、『日本沈没』
がベストセラーになったりする
現象と同根のものである。11
P.Mの大橋巨象あたりが「スブ
ーン曲げ」に熱狂しているの
は、なにも『週刊朝日』がいき
り立つほどのものではなく、衰
れな愛嬌と見なすこともできよ
うが、先般の「スブーン曲げ」

ブームでは小松左京や加藤秀俊
あたりまでがこの罪深いブーム
に「役買った」のだから、あきれ
てしまう。多趣味博識を誇る新
京都派文化人の余興にしても、
無責任すぎたというものたる

う。いくら『日本沈没』がすぐ
れたSF小説だったとしても、

カイヨウ流の余暇の論理が「正當」
なものだったとしても、世の中
には、小松や加藤が「推奨」す
るのだからと信じこんだ「迷え
る小羊」も多かったのだから、
少しは恥を知ってもらわねばな
るまい。

それにしても、「スブーン曲
げ」ブームに水をさしたり、『朝

日」本紙の「偏回」に対抗したり
してこのところ好評の『週刊朝
日』にしたって、こうしたお得
意様知識人の責任には眼をつむ
ったまま彼らを再登場させてい
るのだし、流れに棹さすオビニ

オン誌を誼いあげた『諸君ノ』
でさえも、小松の駄文を長々と
のせて一時はオカルト・
ブームに傾きかけたのだ

からまったくくわけがわしくなっ
てしまう。
インチキ科学者や、新左翼く
ずれの終末論者が横行するなか
で、一方では、こうしたインチ
キに毅然と立ちむかっていた科学者
や硬骨漢も存在したことは、一
服の清涼剤であったが、それに

しても、今日の情報化時代にお

けるブームの危険性について
は、大いに脚を踏んばってそれ
こそ流れに棹さしてゆかねばな
るまい。左右の全体主義は一種
のエクスタシーを伴う熱狂を権
力支配の磁場に溝条化すること

によって達せられるものだから
である。そして、とくに、「ス
ターリン 神話」や「毛沢 東神

話」の世界がそうであるよう
に、科学性と合理主義への信頼
が否定される非人間的世界は、
無責任な煽動者と無智なる大衆
とによってもたらされるものだ
からである。今日の情報化時代
に於て、マスコミがその煽動者
になる可能性をもっていること
については、いまさらいうまで

もなからう。